

令和4年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（京都市立乾隆幼稚園）

教育目標

心豊かにたくましく、生き生きと遊ぶ子どもの育成

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月18日	学校運営協議会 理事
最終評価		

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- 少人数の園として少人数の弱みを強みに変えられるように異年齢の取組を増やすことで自律性（折り合う心）を育む保育を実践する。
- 子どもが心身ともに健やかに育つための安全安心な環境づくりを絶えず見直し、改善を図る。
- 子どもが夢中になって遊び、自分の力を發揮し、友達と関わる楽しさや協働する喜びを感じるための教員の援助や環境構成を行う。
- 保育の専門性を高め、子どもの育ちを保障していくために、園内研修を充実する。
- 子ども一人一人へのねらいをもち計画性をもった保育と子どもの姿から一日の保育を振り返り、改善していくP D C Aサイクルの確立（週案・個別の指導計画等の活用）。

（取組結果を検証する）各種指標

- 幼児の姿の変容・週案の反省、評価の記述・事例検討
- アンケート項目①「幼稚園は教育目標に向けての保育を行っている」②「幼稚園の環境は安全で子どもが豊かな体験ができるよう整えられている」⑧「子どもは楽しく幼稚園に通っている」⑨「子どもは今夢中になっているものがある」

中間評価

各種指標結果

・コロナ禍ではあるが、今年度は緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が出されず、保育や園行事が感染症対策をとりながらも計画通りに進められた。マスク着用や密を避ける取組等は継続し、コロナ前に戻ったわけではないが、子どもたちは夢中になって遊び込む姿が多く見られるようになった。子どもたちの遊びの検証も園内研修等で定期的にもつことができた。安全な環境づくりは日々の点検に努めている。

- ・アンケート結果①A86% B14%②A67% B33%⑧A90% B5% C5%⑨A62% B33% C5%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・少人数園として取り組んでいる異年齢の活動は、互いに刺激を与え合い効果的な面が多く見られた。すべての子どもたちに有意義な活動になるように絶えず振り返っている。コロナ禍による活動内容については課題である。
- ・安全についての環境としては、遊具の補修や木々の剪定を意識的に入れている。水遊びや運動会に向けて、子どものマスクの着脱は判断に苦慮したが、そもそもマスク生活（表情が読み取りにくい）が子どもにどのような影響があるのかは検証しなくてはならないと思う。
- ・教員の援助や環境構成については園内研修で話し合い、週案を活用しながら保育の充実を図っている。すべての子が楽しいと感じる幼稚園になるように子どもの姿から一日を振り返る話し合いを今後も大切にしたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・少人数園としての保育の在り方は絶えず考えていきたい。目が届きやすい長所がある反面、友達関係が広がりにくい弱点がある。異年齢の取組は効果的に進むように研究しているが、教職員の子どもへの関わり方については絶えず振り返り、よりよい保育の在り方を見つけてていきたい。
- ・コロナ禍の活動も慣れてきた面があるので、感染症対策をとりつつも、より遊び込む姿が見られるように保育実践をしていきたい。
- ・自園の研修だけでなく、他園の取組から学ぶことも多いので、幼稚園教育研究会にも積極的に参画していくようにしたい。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・園の環境や保育がより効果的なものになっているか。コロナ禍でもできることを考え、以前にやっていたことをそのまま実施するのではなく、新たな取組が考えられているか。
- ・保護者のアンケートや日常の保護者からの聞き取った意見から検証する。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・コロナ感染対策もごく普通にとれていると思われる。その中で祖父母参観や休日運動会等3年ぶりにできたことは喜ばしい。
- ・以前に比べ、さらに少人数園になってきているが、異年齢の取組に力を入れているのはよい事だと思う。また幼稚園にもＩＣＴの環境が整えられていることは望ましい。
- ・実際の体験を大切にしている幼稚園として栽培活動は継続してもらいたい。
- ・アンケート項目の「自分のことは自分でする」や「親子で絵本を読む」については、家庭教育に関わるところであるが、園に期待しているところもあるので手立てを考えてはどうか。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（2）幼小連携・接続に関して

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> 乾隆小学校、紫野小学校との連携、交流を通して教員の相互理解を図り、幼小の円滑な接続を推進する。（互いの便り・行事予定を交換し、交流のための年間計画を作成する。） 乾隆小学校、紫野小学校との授業参観・保育公開の相互交流と共に、合同研修を行う。 小学校期の学びにつなげる「学びに向かう力」の育成を意識した保育を推進する。
(取組結果を検証する) 各種指標

- 交流の事前・事後の検討内容について
- 公開保育・合同研修の回数・内容
- アンケート項目③「保幼小連携、地域との連携等の取組は子どもの育ちにつながっている」

中間評価

各種指標結果				
<ul style="list-style-type: none"> 乾隆小学校や紫野小学校とは、互いの便り、行事予定の交換はできた。ただ現時点（中間期）で子ども同士や教員の交流は再開できていない状況である。8月の幼保小の研修は配信での研修ということもあり、両小学校とも参加いただけた。乾隆小学校とは合同研修ももつことができた。 乾隆小学校とは互いの学校運営協議会の委員になっている関係でもあり、管理職同士のつながりはある。施設を借りる行事もあり、日常的な情報交換は取れている。 				
アンケート結果③ A52% B48%				
<table border="1"> <tr> <td>分析（成果と課題）</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 直接的な交流は、今年度も再開に至っていない。特に子どもに関してはほとんどできていない。 入学した学校ごとに教員が連絡を取ることは継続している。 参観については、少しずつ可能になってきている。教員同士が互いの授業風景を見られるようになれば話し合いもあるようにしていきたい。 乾隆小学校とは学校運営協議会での繋がりだけでなく、地域行事が再開されるものも増え、それを介して連絡や相談が増えてきている。施設を使わせてもらい園児が小学校に慣れるこことは少しずつ増えている。 </td> </tr> <tr> <td>分析を踏まえた取組の改善</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍、現時点での管理職段階の連携を絶やさず、状況に応じて、教職員や子どもも含めた連携ができるようにしていきたい。 後期に向けて、就学支援シートや個別の指導計画等の活用を含め、特性のあるなしに関わらず小学校へのつなぎができるようにしっかりと子どもの見取りを行いたい。 </td> </tr> </table>	分析（成果と課題）	<ul style="list-style-type: none"> 直接的な交流は、今年度も再開に至っていない。特に子どもに関してはほとんどできていない。 入学した学校ごとに教員が連絡を取ることは継続している。 参観については、少しずつ可能になってきている。教員同士が互いの授業風景を見られるようになれば話し合いもあるようにしていきたい。 乾隆小学校とは学校運営協議会での繋がりだけでなく、地域行事が再開されるものも増え、それを介して連絡や相談が増えてきている。施設を使わせてもらい園児が小学校に慣れるこことは少しずつ増えている。 	分析を踏まえた取組の改善	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍、現時点での管理職段階の連携を絶やさず、状況に応じて、教職員や子どもも含めた連携ができるようにしていきたい。 後期に向けて、就学支援シートや個別の指導計画等の活用を含め、特性のあるなしに関わらず小学校へのつなぎができるようにしっかりと子どもの見取りを行いたい。
分析（成果と課題）				
<ul style="list-style-type: none"> 直接的な交流は、今年度も再開に至っていない。特に子どもに関してはほとんどできていない。 入学した学校ごとに教員が連絡を取ることは継続している。 参観については、少しずつ可能になってきている。教員同士が互いの授業風景を見られるようになれば話し合いもあるようにしていきたい。 乾隆小学校とは学校運営協議会での繋がりだけでなく、地域行事が再開されるものも増え、それを介して連絡や相談が増えてきている。施設を使わせてもらい園児が小学校に慣れるこことは少しずつ増えている。 				
分析を踏まえた取組の改善				
<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍、現時点での管理職段階の連携を絶やさず、状況に応じて、教職員や子どもも含めた連携ができるようにしていきたい。 後期に向けて、就学支援シートや個別の指導計画等の活用を含め、特性のあるなしに関わらず小学校へのつなぎができるようにしっかりと子どもの見取りを行いたい。 				

	<ul style="list-style-type: none"> ・本園は幼保小の架け橋プログラムの研究をしている園ではないが、公立幼稚園として小学校との接続を考えるだけでなく、他の就学前施設との交流も視野に入れたい。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ前の状況にまでは戻らないとしても、少しでも対面での交流、連携ができるようになつたか。少しでも架け橋プログラムにつながる保育が実践できたか。 ・卒園児を各小学校にうまくつなぐことができたか。 ・保護者アンケートや日常の保護者からの聞き取りから検証する。

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍、できないことも未だ多いと思われる。その中で、できることからやっていくしかないと思う。 ・「架け橋プロジェクト」の話を聞いたが、幼稚園だけでなく保育園、子ども園とも連携して、小学校とつながっていく必要があることがわかった。幼稚園としてすべきことを構築していくってもらいたい。
-----------------------------	---

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p>
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>

(3) 預かり保育について

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会全体で子育てを支えるうえで預かり保育が果たす役割を認識し、地域に周知するとともに、地域資源の活用を含め、その充実を図る。新2号や預かり時間の広報にも努める。(早朝8時も) ・安全、安心な環境で家庭的な雰囲気をつくる。 ・預かり保育指導計画を見直し、より望ましい活動を実施する。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数とその活動内容や指導計画の見直し状況 ・新2号についての問い合わせ件数、利用家庭の割合 ・アンケート項目④「さくらんぼ組や預かり保育等の子育て支援の取組があることを知っている」 ⑫「子どもは楽しんで預かり保育に参加している」

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数として、毎月1度でも利用する人数は16人でこれは全体の76%に当たる。
--	--

また今年度から実施された早朝保育も5名の参加があり、全体の24%の利用があった。

- ・新2号は9名で申請中の方を含めると約半数の家庭が利用している。

- ・アンケート結果④A86% B14% ⑫利用者は全体の76%中 A69% B31%

自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の認知度は問題ない。早朝保育についても在園保護者には周知できて。必要に応じて利用が始まっている。 ・預かり保育として、サッカー教室や絵本の読み聞かせを月に1回～数回、ボランティアの方にお願いしていたが、コロナ禍になり頓挫していた。ようやく絵本ママの取組は2学期より再開できた。体を動かしてほしいという要望にはまだ応えられていない。 ・入園児を増やすためには、様々な方法で広報することが必要であるとホームページなどを活用し広報してきた。効果の程度の評価はできていない。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・新2号の方だけでなく、その時々の必要に応じて、活用しやすい預かり保育を目指していくようにしたい。また絵本ママだけでなく茶道の活動も取り入れていきたい。 ・入園児の獲得のためにも、早朝預かり保育も含め、園の取組全体の広報を更に進めていきたい。 ・年少組の子どもたちも開始から利用が増えている。午後保育の始まりも含めて、預かり保育の始期も次年度に向けて検討したい。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の内容を含め、その運用が適切にされているか。 ・預かり保育の制度が十分に認知されているか検証する。 ・保護者アンケートや日常の保護者からの聞き取りから検証する。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本ママの取組が再開できてよかったです。お茶の取組も考えているようであるが、人気のあったサッカーの取組も再開できるとよい。 ・午前8時からの早朝預かりが今年度より始まり、利用者が一定数いるのはニーズがあったからだと思う。ただ入園数につながるかは今後の検証によると思う。

最終評価

自己評価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（4）子育ての支援に関して

具体的な取組

- ・保育公開や自由参観などの教育発信に努め、開かれた幼稚園づくりを推進する。
- ・地域の児童館や地域諸団体との連携を図り、子育て相談や園庭開放を実施するなど、地域の子育て支援センターとしての役割を果たす。
- ・園庭開放を行うことで未就園児保護者が気軽にに入る空間づくりを考える。できだけ未就園クラス「さくらんぼ組」には顔を出し、気軽に相談を受ける雰囲気をつくる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・子育て支援の取組回数や参加人数、教育相談件数
- ・未就園児保護者へのアンケート、聞き取りを実施する。
- ・アンケート項目④「さくらんぼ組や預かり保育等の子育て支援の取組があることを知っている」

中間評価

各種指標結果

- ・さくらんぼ組には毎回平均で5組程度の参加があった。園見学には学期に2組程度の参加であった。園庭開放の利用も少しづつ増えてきている。
- ・「ほっこり子育て広場」を再開した。学期に1回程度する予定である。第1回は申込制で7家庭の参加であった。これは約3分の1になる。
- ・園長が毎回さくらんぼ組に出向き、未就園保護者の方からの聞き取りを行っている。
- ・アンケート結果④A86% B14%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・今年度は「さくらんぼ組」も休止期間がなく、毎月の便り通りに実施することができた。そのためか参加者は昨年よりは増えてきている。登録者数を増やす効果は、夏まつりやゆずります会の保育会主催イベントが大きく寄与してくれた。
- ・「ほっこり子育て広場」は以前、子どもの誕生会に合わせて実施していたが、園児数が減り、毎月の実施が困難になった。そこで今年度、学期1回の申込制で再開した。前期はまだ1回のみだが、子育てについての情報交換の場になればよいと考える。
- ・便りを小規模保育園や児童館にも置かせていただいたり、ホームページに掲載したり広報に努めている。

分析を踏まえた取組の改善

- ・「さくらんぼ組」も毎月途切れることなく継続したことは大きい。今後も保育会との連携の上、登録者が増えるように取り組んでいきたい。
- ・広報についても保護者間の口コミはとても影響力はある。今後も保育会との連携は密に行っていきたい。
- ・小規模保育園等のチラシを置いていただく施設の開拓やホームページの発信は今後も継続していきたい。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・未就園クラスの登録者、参加者の数や参加保護者の聞き取りから検証する。
- ・子育て支援の取組についての実施状況をみる。
- ・保護者のアンケートや日常の保護者からの聞き取りから検証する。

学校 関係者 評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・入園児数を増やすには、子育て支援の取組が必須だと考える。今年度はできる取組も増えたようなので、保育会が実施した乾隆幼稚園まつりのような集客力のあるものを今後も取り入れられるとよい。 ・さくらんぼ組や園庭開放の取組を地道に継続していくことは、決して遠回りではないと思われる。今後もホームページをはじめ、小規模保育所にチラシをもっていいくなど広報に努めても良いたい。

最終評価

自己 評価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
	<table border="1"> <tr> <td>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</td></tr> <tr> <td>分析を踏まえた取組の改善</td></tr> </table>	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題		
分析を踏まえた取組の改善		
学校 関係者 評価	学校関係者による意見・支援策	

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

具体的な取組	(取組結果を検証する) 各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営協議会委員の方との情報交換や連携強化に努め、関係者評価を活用し、教育活動の改善を図る。また積極的に地域の行事に参加するなど、地域とのつながりを大切にする。 ・ 地域の資源を活かした指導計画を作成する。 ・ 自園の取組や教育内容をHPや幼稚園地域版だよりで発信し、開かれた幼稚園づくりする。

中間評価

各種指標結果	分析 (成果と課題)

・ 今年度は乾隆まつりが開催された。園児がステージコーナーに出演し保育会がブースを担当した。地域の中の幼稚園としてアピールできたと思う。乾隆敬老会は中止になったが、嘉楽学区の敬老会には年長児が顔を出す予定である。

・ 乾隆交通安全会の方の登園時見守り以外にも、地域女性会の方から緑のカーテン事業として「洛いも」の苗をいただいている。また運動会には体育振興会の方に施設や設備面でとてもお世話になった。民生児童委員の未就園児取組「すくすくクラブ」には広報で協力している。そういう関係を通じて地域の方と話す機会も格段に増えてきている。

・ 乾隆学区回覧版の園だより（地域誌）を月1回発行し、園門横に掲示している。

自己	分析 (成果と課題)
	・ 昨年度は、学校運営協議会の理事会も紙面での開催になり、関わりも幼稚園のお便りを届ける

評価	<p>時にお話しするぐらいだったのが、園内で理事会がもて直接ご意見がいただけるようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベントも再開されるものが増えてくると直接お会いして地域の方と話すことも増える。幼稚園としても様々な協力を得ることができた。 ・回覧の地域版乾隆幼稚園便りも中身に関してのご意見を頂戴する事があるので、今後も内容を充実しながら続けていきたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の委員の方は勿論、多くの地域の皆様とのつながりがもてるようになってきた。お便りを配布するときなど積極的に地域を歩き、話ができるようにしていきたい。 ・上記の通り、乾隆まつりや乾隆学区民運動会が開催されることで地域の方と話す機会が増えた。未だ開催されていないものにもアンテナをしっかり張って、つながりが途絶えないようにしていきたい。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々のつながりから、地域の方の声を受け止められているか。 ・保護者のアンケートや日常の保護者からの聞き取りから検証する。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年ぶりに乾隆まつりに参加してステージコーナーに年中児と年長児が参加できた。保護者の感想も好印象だったようなので、今後も機会があれば、地域の中に子どもの姿を見せていてもらいたい。 ・地域誌の発行やお便りを配ってもらうことで幼稚園の様子についてはよくわかる。今後、来賓を制限なしで呼べるようになることは望ましいが、当面は広報に力を入れてほしい。

最終評価

自己評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p>
	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>

(6) 教職員の働き方改革について

重点目標	<p>教職員一人一人が生き生きとした姿で子どもと向き合い、心豊かな生活を送る時間を確保する。</p>
	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園行事の精選を考える。 ・働き方改革の研修を行う。 ・会議の効率化と分掌の適正化を図る。(特に校務支援員が活躍できる取組を考える) ・教職員一人一人が勤務時間を意識し、子どもと向き合う時間を十分に確保する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 教職員の勤務時間への意識と働く意欲（超過勤務の削減の目標値の設定）
- 年休取得率
- アンケート項目⑦「教職員は生き生きと働いている」

中間評価

各種指標結果

- 働き方改革の話題が出て久しい。職場の意識としても定着してきていると思う。校務支援員の配置により仕事量が少し減っているのは大きい。
- 研修等を通して、年休取得や超過勤務削減への意識はできている。
- アンケート結果⑦ A76% B14%

自己評価

分析（成果と課題）

- 今年度、総合育成支援員も校務支援員も本園に入る時間数をフルで勤務してもらえた。コロナ感染症が収束していない中、消毒や環境整備など分担できる仕事を受け持つてもらうことで担任は本務に時間が割ける。意欲が増すことの一助になり働き方改革につながっていると考える。
- 幼稚園の教職員数は少ないので、一人が受け持つ仕事は多いが、その分連絡や相談がしやすく極端な仕事の偏りは解消されていると思う。
- 教職員の勤務時間が様々であることも含め、会議は必要最低限の回数と短い時間で行い、効率化は図られている。

分析を踏まえた取組の改善

- コロナ禍で中止になっていた行事が再開できるようになったので、仕事量は戻ってきたがコロナ前の行事をそのまま戻すのではなく、子どもが活躍できるもので、教員に意欲が出る行事を再構築していきたい。
- 教職員それぞれが意欲的であることは勿論、計画性や段取り力をつけ、超過勤務削減のように時間を意識するようにしていきたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- 会議の効率化を含め、働き方改革を意識した勤務状況であるか検証する。
- 年休取得率や超過勤務時間
- 保護者アンケートや日常の保護者からの意見から検証する。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- 子どもたちの元気に過ごす源は、教職員が生き生き過ごしているかということにつながる。教職員が意欲をもって働くためにも働き方改革は推進していってもらいたい。
- 校務支援員のような職員が配置されることによって、担任が子どもに関わる仕事に専念できるというのがよい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

分析を踏まえた取組の改善

学校関係者による意見・支援策